

溪畔域の植生回復試験 ～カタクリ等の再生状況～



森林技術・支援センター
業務係長 中山優子

■ 1999年の試験地林床



4 m以上にもなるアズマネザサとアオキやコクサギ等の低木類に覆われていた。



■ はじめに 「茨城県植物誌」

御前山

御前山は、山の北すそを那珂川が、西側に相川が、東南側を皇都川が流れ、さらに小さな沢がいくつもあり、多湿であるため、植物の生育状況はすこぶる良い。

～ 中 略 ～

少し進むと見事なケヤキ林に出る。早春にはアズマイチゲ、イチリンソウ、カタクリ、ニリンソウ、キクザキイチゲ、セントウソウ、ハルトラノオ、ムラサキケマン、ジロボウエンゴサク、ヒカゲスミレ、タチツボスミレなどが咲き乱れる。



■ 試験の目的

アズマネザサが
水辺林で繁殖

- ・アズマネザサが侵入し、林床を優占
- ・草本類の成長・繁殖に深刻な被害

林床の
光環境の回復

- ・アズマネザサの刈り払いを実施
- ・林床の光環境の回復を図る

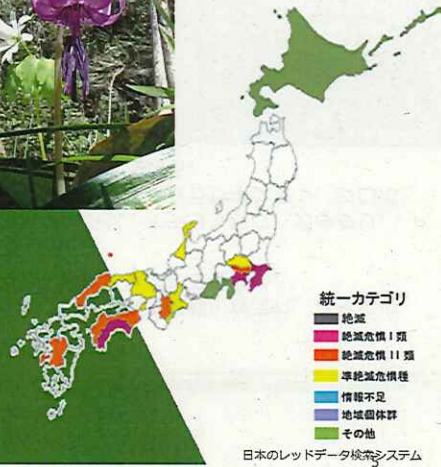
林床植物の
保護・再生

- ・春植物であるカタクリに注目し調査

■カタクリ

レッドリスト のカテゴリー

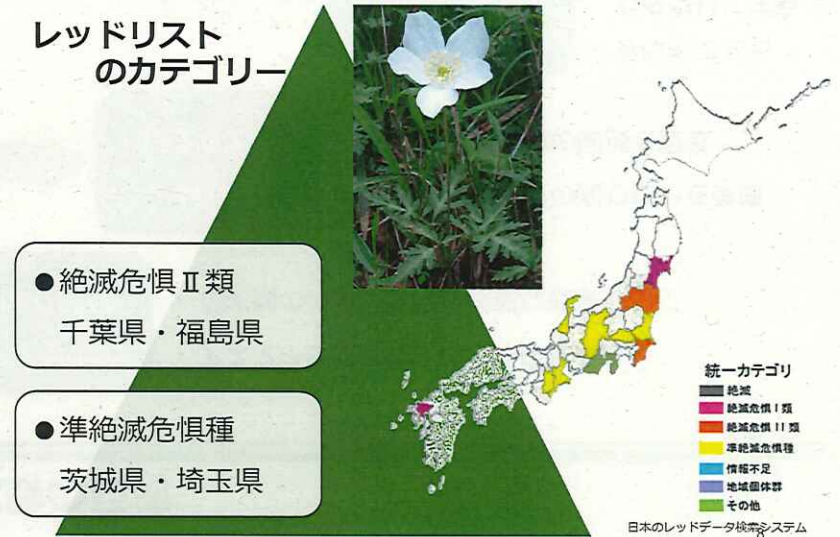
- 絶滅危惧Ⅰ類
千葉県・神奈川県
- 絶滅危惧Ⅱ類
東京都
- 準絶滅危惧種
埼玉県
- 指定なし
茨城県



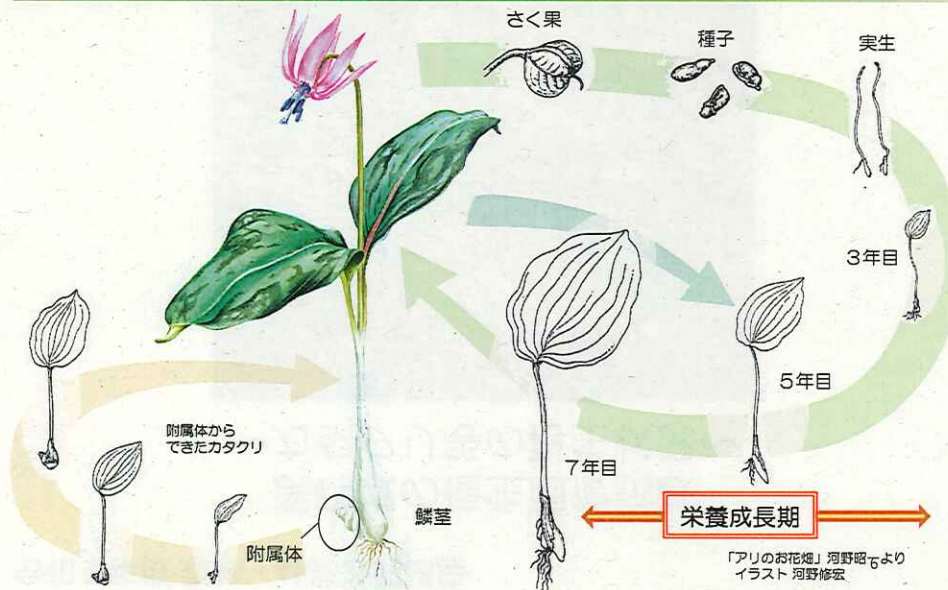
■イチリンソウ

レッドリスト のカテゴリー

- 絶滅危惧Ⅱ類
千葉県・福島県
- 準絶滅危惧種
茨城県・埼玉県



■カタクリの生活史



■キクザキイチゲ

レッドリスト のカテゴリー

- 絶滅種
埼玉県
- 絶滅危惧Ⅰ類
千葉県・東京都
- 準絶滅危惧種
茨城県



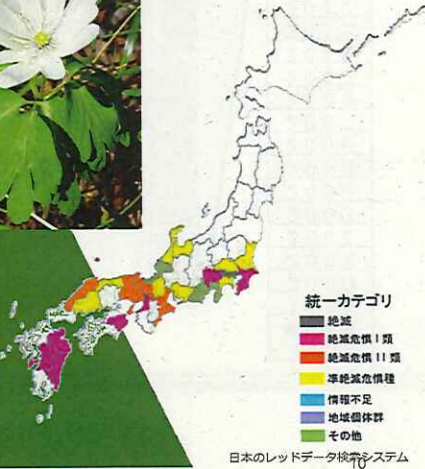
■ アズマイチゲ

レッドリスト のカテゴリー

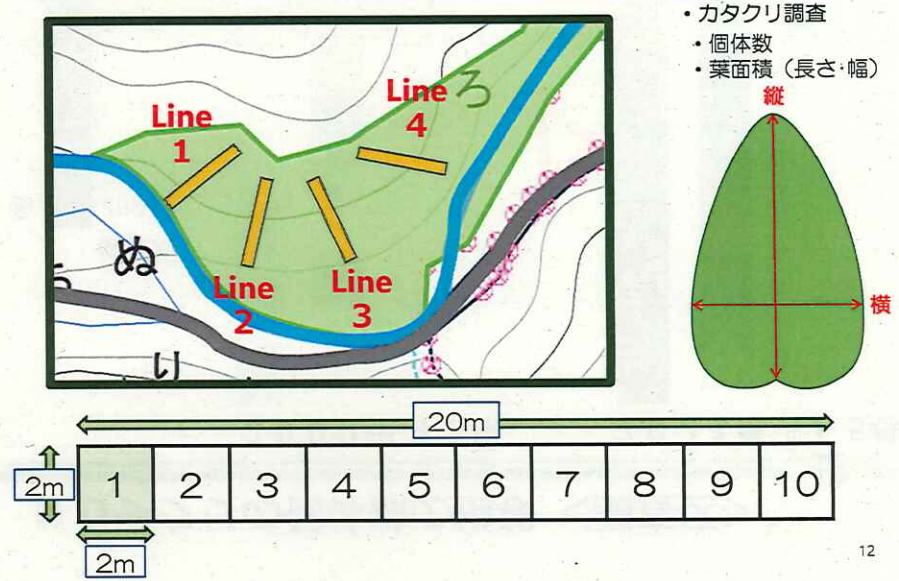
● 絶滅種
東京都

● 絶滅危惧Ⅰ類
千葉県

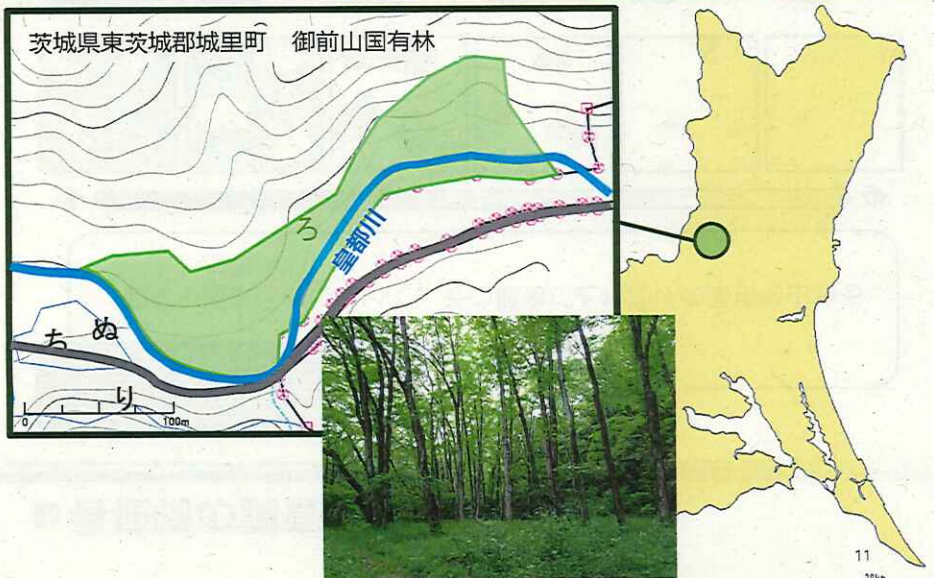
● 準絶滅危惧種
茨城県・埼玉県・
神奈川県



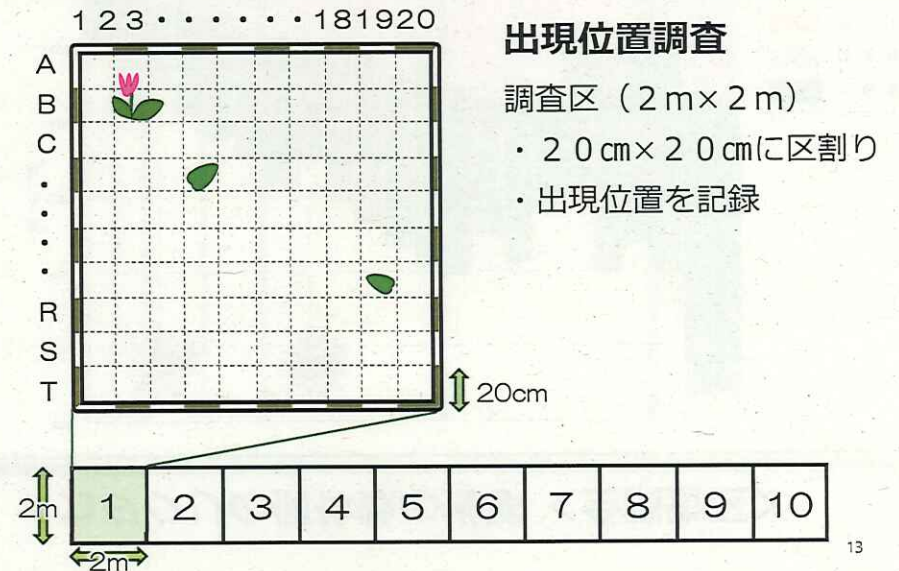
■ カタクリ調査方法 (2000年～2015年)



■ 試験地



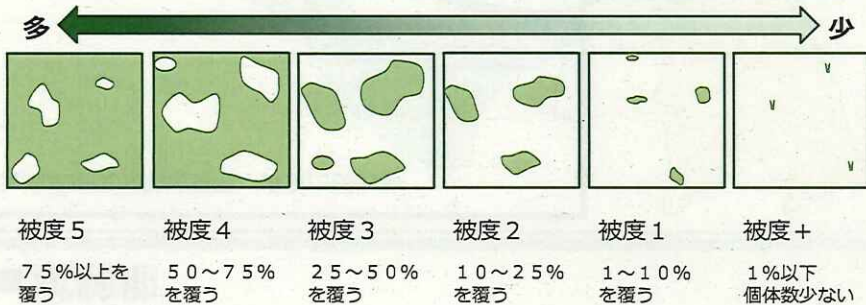
■ カタクリ調査方法 (2016年～)



■ 春植物の調査方法

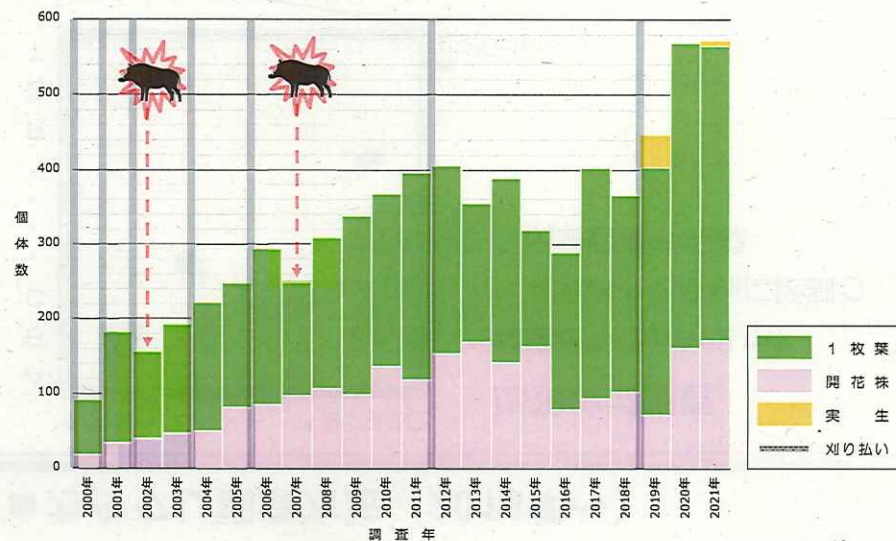
Braun-Blanquet法による優先度

被度：調査区内において、その植物がどれだけの面積を占めるかを示す。



14

■ カタクリの個体数の推移 <全調査区>



18

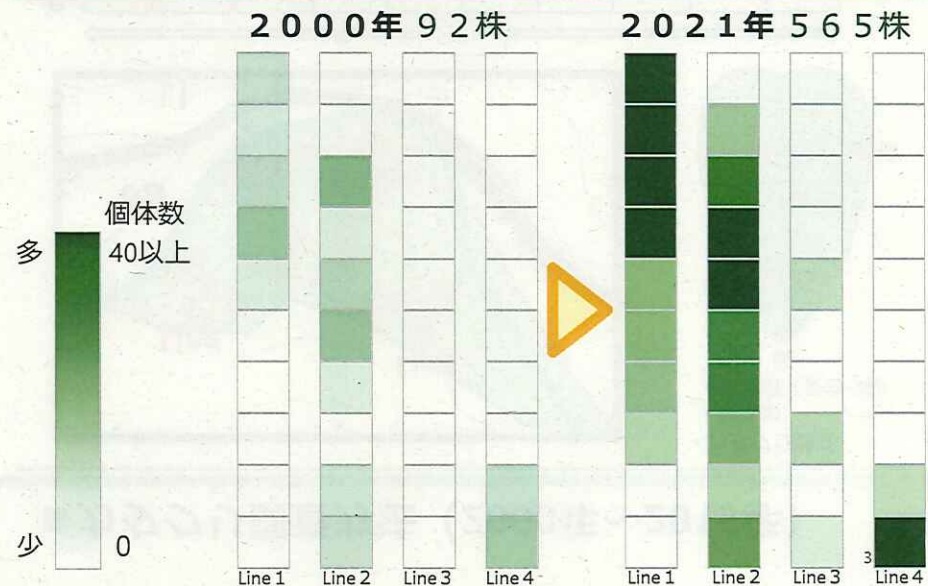
■ 刈払い



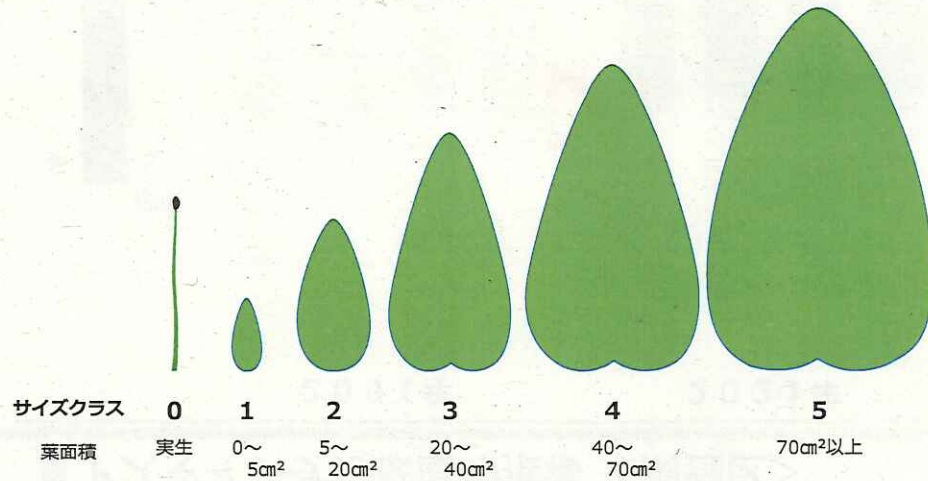
刈払い 実施年度
1999
2000
2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
2021

17

■ カタクリの個体数の推移 <調査区>



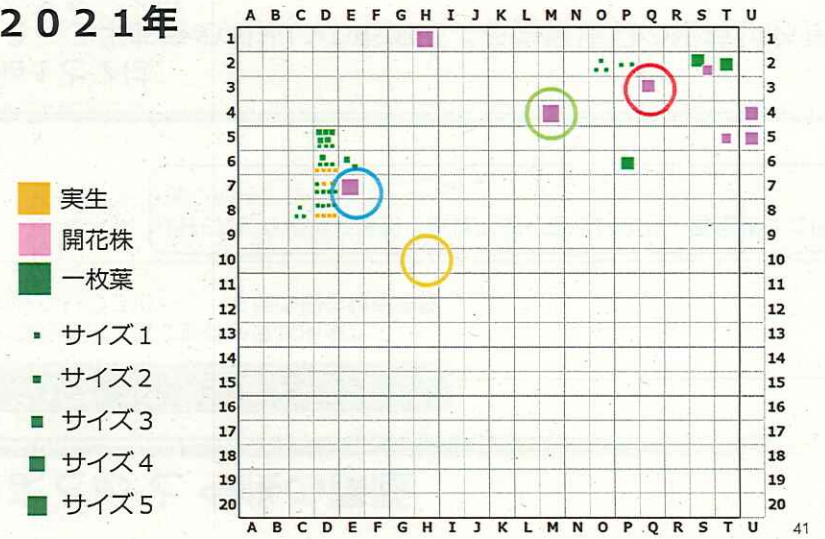
■ 葉のサイズクラス



34

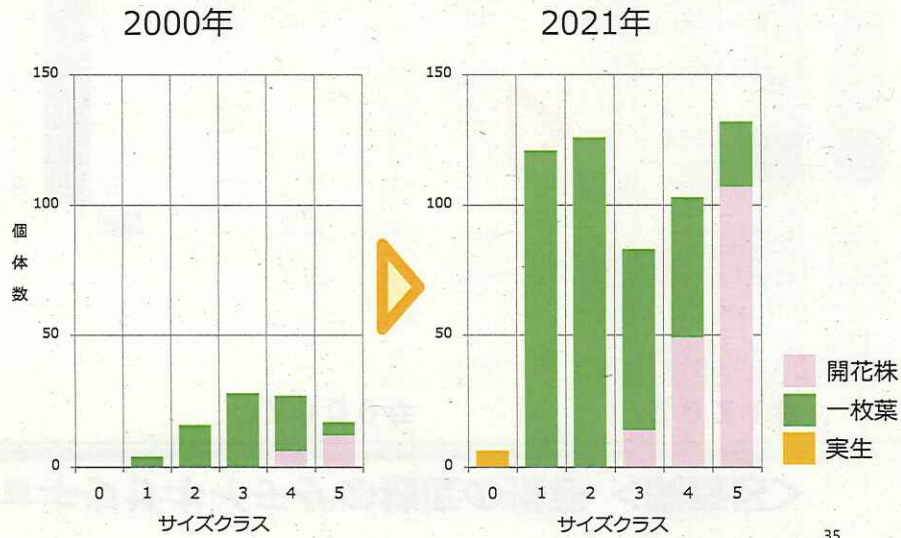
■ カタクリの出現位置 <Line 4 - 1>

2021年



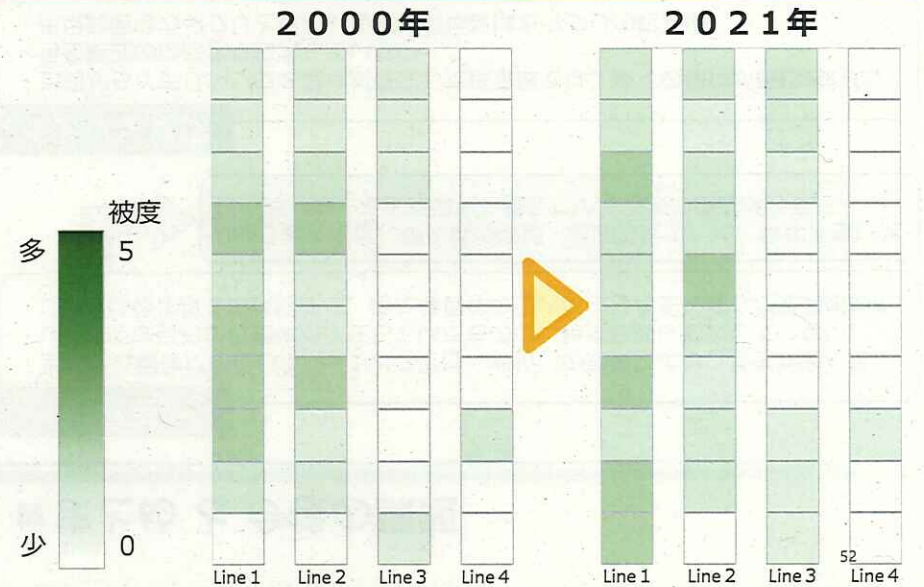
41

■ 葉のサイズ別個体数の推移



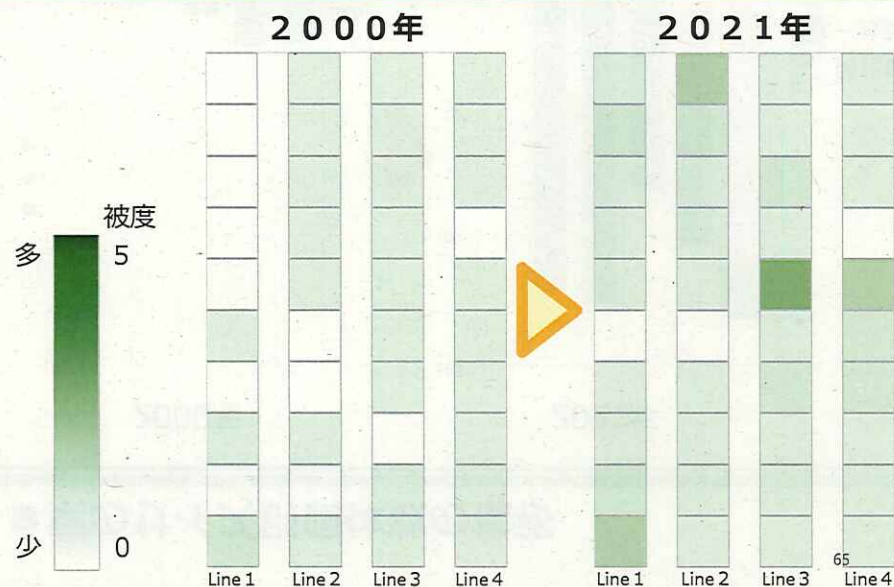
35

■ イチリンソウの被度の推移 <調査区>



52

■ キクザキイチゲの被度の推移 <調査区>



■ まとめ と 今後の課題

カタクリ

- ・当初から個体が存在したLine 1 と 2 では、刈払いの効果により、再生が進んだ。
- ・Line 4 では当初から個体が存在していたものの、再生範囲は拡大していない。
- ・Line 3 は個体数 0 の状態から、新たな個体の侵入により再生の兆しが見え始めた。

Line 3 と 4 では、個体数の増加・範囲拡大のため、毎年刈払いを行う等、適した生育環境を整えていく方法の検討が必要。

イチリンソウ

- ・当初からイチリンソウの個体が存在した調査区では、多くの個体が確認された。
- ・再生範囲のはあまり拡大していない。
- ・出現範囲はカタクリと似ているが、個体数はカタクリの約 4 倍。

カタクリに適した生育環境を整えていくことで、イチリンソウの再生範囲の拡大にも繋がる可能性が期待される。

■ アズマイチゲの被度の推移 <調査区>



■ まとめ と 今後の課題

キクザキイチゲ・アズマイチゲ

- ・大部分の調査区で個体を確認出来た。
- ・カタクリの 2 倍～ 3.5 倍の個体数を確認

現在の生育環境を維持し続けていくことにより、再生個体の増加が期待できる。

Line 1 と 2 は、
2～3年おきの刈払いの実施による生育環境の維持が必要。
Line 3 と 4 では、
適した生育環境を整えていく方法の検討が必要。